

開催前日に機材を搬入し、当日は朝6時から準備を始め3時プレオープン。5時開会式。

テントを増やし、名称も「夏祭り桜台」に変え焼き鳥、かき氷、フランク、金魚すくい、射的などの屋台を出しました。

閉会前にはその年の流行りの品を一等賞に、温泉ペア宿泊券やらアルテ様始め桜台の商店事業所から戴いた豪華景品での大抽選会を行い盛会のうちに終了。20時半終了後の片付け、翌日6時半から片付け、集計と大忙しでしたが毎年楽しくやって来ました。

これからも皆で意見、提案を出し合い、楽しい桜台にしていきましょう。

18年前は体育部長、前青年部長
間もなく60歳の成年部長 記



いっぱいこれたかな？



安いよ、おいしいよ

地区の名勝・史跡

山の神様と雷神様

桜台の西公園には「山の神様」と「雷神様」の小さな石碑が仲良く祀られています。



桜台西公園全景

この石碑は、駅西第4区画整備事業(昭和61年10月完成)時に、土の中から偶然発見されたもので今から約127年前の「明治25年7月12日」「佐藤藤十」と刻まれています。

当時、鋤ひとつで原野を切り開き田畑を耕してきた先人は、自然を敬い、恐れ、山の神や雷神に五穀豊穡や無災害を祈願したものと思われます。

石碑は、区画整備事業の終了と共に現在地に再建され、平成16年、

桜台自治会々長 渡辺 征彦

当時の区長、岡田光雄氏の呼びかけで、桜台町内有志により改めて魂入れ共に五穀豊穡、地域の発展を祈願しました。

それからは有志により、毎年12月12日にお祀りして来ましたが、有志の方々の高齢化とともに再び忘れ去られては、との思いから一昨年より年末の自治会行事に組み入れ、歴史の継承を図って行くことになりました。



雷神様と山ノ神様

ちなみに、山の神様は、春になると山から降りて来て、田の神となり秋には、再び山に戻ると云う信仰があります。東北や北海道では12月12日や1月12日など12の日

にまつわる日に五穀豊穡を祈り、12日は山の仕事は一切行わない慣習が残っているそうです。

又、雷神様は浅草寺の雷門が有名ですが、雷神(ライサマ)雷電様(ライデン)、雷公様(ライコウ)、鳴神様とも言われ雷を司る神さまです。

平安時代の貴族であった菅原道真公の死後、天変地異が多発したことから天神(雷の神)として、祀られるようになったとも伝えられております。

歴史の浅い桜台地区の守り神として今後とも、皆で大切にお祀りしてまいりたいと考えております。

◆編集後記

こぶし20号の発刊に向けて、9月13日に第1回の編集委員会を開催し、発行方針等を確認する。
毎回、2回目の編集委員会が近づくにつれ、夜中になぜか目覚める。
原稿は期日まで大丈夫か？写真は？見出しは？等々気になり出すと益々目が冴えてくる。
そして翌朝、無駄な事を考えていたことに気がつくのである。
このプレッシャーで腹の肉が、押し潰されウエストが細くなるのでは…と真剣に考えているが今のところ効果は出て来て無い。
今回も貴重なご寄稿に感謝申し上げます。

編集委員長 北山 六郎